

令和6年度 新田小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 基本目標
人間尊重の精神を基盤とする、知・徳・体の調和のとれた、心身ともに健康で人間力豊かな児童の育成
- (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）
 - ・よく考える子ども：規範意識をもち、自ら考え、進んで学べる子ども
 - ・思いやりのある子ども：自他のよさに気付き、共に伸びようとする子ども
 - ・体力のある子ども：心身ともに健康で気力や体力に満ちた子ども
 - ・はたらく子ども：目標の実現に向けて粘り強く取り組める子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化を目指して全教職員が一丸となり、保護者・地域住民と一体となって連携・協働し、活気と創意に満ちた教育活動の展開を通して、目指す学校像に迫る。

《目指す学校像》

- 子供たちが安心して生き生きと自己発揮できる「どの子ども輝く学校」
- 教職員が互いに学び合い磨き合う「働きがいのある学校」
- 保護者にとって「通わせて安心な学校」
- 地域住民と連携・協働する「地域とともにある学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 互いに認め合い自己発揮できる「どの子ども輝く学校」

- ・互いの違いやよさを認め合うきめ細かな支援を行い、すべての児童にとって居がいの感のもてる温かい雰囲気学の級経営を推進する。
- ・一人一人の内面理解に努め、よさを引き出せるよう一人一人を大切にする。
- ・児童への認めてほめて励ます指導により、思いやり、自己肯定感・自己有用感を高める。
- 「宇都宮モデル」を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を展開し、学級を学びに向かう集団に成長させていく。

(2) 児童や保護者にとって「安心・安全な学校」

- ・児童が心身共に安心・安全で潤いのある環境の中で生活できるよう、温かい人間関係の醸成や学びを高める環境の整備・活用、校舎等の点検・整備に努める。
- ・児童のよさや学校・学級情報を積極的に発信したり、きめ細かで誠意のある対応を心がけたりして、保護者との連携を密にし、共通理解を図る。
- ・家庭や地域の声を収集し、問題点を速やかに工夫・改善するなど誠意ある対応をする。
- ・教科体育の充実、外遊びの奨励等を通して体力の増進を図るとともに、健康を維持・管理する能力を育成する。
- ・地域やPTAによる見守り活動と連携を図ったり、交通安全教室、避難訓練などを実施したりして、児童自らが危険を予測し回避する行動力を身に付ける指導を強化する。

(3) 教職員が互いに学び合い磨き合う「働きがいのある学校」

- ・創意ある提案や意見交換を大切にしながら、教職員の資質・能力の向上を目指すとともに、学校全体の組織力向上に努め、学校経営への参画意識を高める。
- ・協働遂行力・授業力・学級経営力・特別支援教育力の4つの教師力を身に付けるため、教職員の資質・能力向上策を推進する。
- ・教職員がいきいきとやりがいを感じながら勤務し、心身ともに健康で児童と向き合えるよう、働き方改革の視点から「勤務時間を意識した働き方」「校内業務の効率化」「ICTの効果的な活用」などの推進を図る。

(4) 地域住民と連携・協働する「地域とともにある学校」

- 地域学校園や児童会の取組、及び家庭・地域との連携を生かした「あいさつ運動」を通して、規範意識を高める取組を推進する。
- ・地域の教育資源と地域人材のさらなる開発と活用の工夫を図る。
- ・学校支援ボランティアや下校ボランティアなど、高齢者をはじめ、学校を支えてくれる方々への感謝の心を育むよう努める。

・学校だよりやHP等による情報発信を積極的に推進する。

【若松原地域学校園教育ビジョン】

「つなげよう学び 鍛えよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

4 教育課程編成の方針

- (1) 関係法令、県教育振興基本計画 2025、市学校教育スタンダードや指導の重点などを踏まえ、学校経営方針に基づき、知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開し、教育目標の達成を期する。
- (2) 「社会に開かれた教育課程」の視点に立ち、社会の変化に向き合い適切に対応していくため、学校教育を通して育むべき資質・能力を明確にし、教科等の関連や地域の教育資源や人材活用を図り、適切かつ、一貫性のある教育過程の編成に努める。
- (3) うつのみやマネジメントシステムによる評価等を踏まえ、実態に即した創意ある教育課程の編成につなげる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
個と集団を育てる教育の実践、組織力・同僚性による効率的な職務の遂行、家庭・地域と一体となった取組の推進などによる、活気と創意に満ちた信頼される学校づくり
○「認めてほめて伸ばす教育」の実践 ○あいさつの響く学校づくりの推進
○わかる授業と居心地のよい温かな学級集団づくりの推進 ・読書活動の推進
・勤務時間を意識した効率的な業務の遂行 ・子供の姿を伝える情報発信
- (2) 学習指導
「自ら学び、互いに高め合う児童の育成」
～児童の「わかる!」「考える!」「伝える!」を高める授業の工夫～
○「学力の基礎・基本」の確実な定着 ・望ましい学習態度、習慣の定着
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 ・読解力・表現力の育成
・読書活動の推進 ・家庭学習の習慣化
- (3) 児童生徒指導
「自ら考え正しく判断し、豊かな人間関係を築くことができる児童の育成」
～思いやりの心をもって、互いに認め合う学校生活を通して～
・礼儀を意識したあいさつの定着、規範意識の醸成
・縦割り班活動や異学年流を充実させた望ましい集団づくり
・個に応じた指導の充実
・家庭・地域・関係機関等との連携
- (4) 健康（体力・保健・食・安全）
「自らの健康に関心を持ち、望ましい生活習慣を身に付けようとする児童の育成」
～生活習慣の改善を目指した取組を中心として～
・健康の保持増進 ・運動の日常化 ・食に関する指導の充実
・判断力・行動力を育む安全教育 ・家庭・地域との連携協力

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は, 友達と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 85%以上	・興味・関心を高めるための授業の導入や展開, 指導法を工夫改善したり, <u>認め合い高め合う集団づくりなど学業指導を継続して実施したりして, 児童の学習意欲を高める。</u> ・校内研修や一人一授業を通して, <u>学習活動(言語活動, 観察・実験, 問題解決的な学習など)の質の向上に努めるとともに, 対話の中で互いの思いや考えを深め合う授業展開の工夫に努める。</u> ・進んで学習に取り組むための具体策を児童と共有するとともに, 児童の頑張りを積極的に認め, 各種たより, ホームページ等で, 保護者に伝えていく。	B	【達成状況】 児童の肯定回答率は, 90%で目標を達成したが, 教職員が 58.1%と昨年より 5.9 ポイント下回った。 【次年度の方針】 興味・関心を高めるための授業の導入や展開, 指導法を工夫改善したり, 認め合い高め合う集団づくりなど学業指導を継続して実施したりして, 児童の学習意欲を高める。 学習活動において, 対話の中で互いの思いや考えを深め合う授業展開の工夫に努める。 主体的な学習を推進する取り組みとして, 「自主学習のすすめ」などの指針を子供たちに示すことで, 家庭学習の定着を図る。また, 児童同士が頑張りを共有する場を継続的に設定していく。
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率 90%以上	・本校及び地域学校園道德教育の重点項目の一つに「思いやり・親切」を掲げ, 各教科等や体験活動等と関連した道德の授業を連携・工夫して実施することで, 思いやりの心を育む。 ・特別の教科道德及び人権教育年間指導計画に基づき, 教育活動全体を通して計画的に道德及び人権教育を実施する。 ・学級活動などの時間を活用し, ソーシャルスキルトレーニングを行うことで, 人権を尊重する心を育成する。 ・わくわくタイムでの縦割り班遊びや清掃活動, 兄弟学年や幼保小連携活動等を通して, 助け合いや思いやりの心を育てる。 ・<u>帰りの会などに友達のよいところを認め合い称賛する機会を設定することで, 相手を思いやる行動を広げていく。</u>	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は, 教職員が 93.5%, 保護者は 91.9%で, 数値指標を上回っている。 昨年度よりも教職員は 5.5 ポイント上回ったが, 保護者は 3.4 ポイント下回った。 【次年度の方針】 学級・学年経営, 道德, 学級活動などの時間を活用し, ソーシャルスキルトレーニングを行うことで, 人権を尊重する心を育成しつつ, 児童一人一人のよさに目を向け, 児童の自己肯定感を高めながらよりよい成長を促す取組を行う。 感謝の会, 6年生を送る会, 体力テスト, 農園活動などの異学年交流を通して, 助け合いや思いやりの心を育てるとともに, 帰りの会などを活用して, 友達のよいところを認め合う機会を設定する。

	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答率 80%以上	・学級活動や各教科の授業や各種検定等において、児童が目標に向かって粘り強く取り組み振り返る機会を設けるとともに、教職員が児童の変容を見取り称賛していく。 ・1日の終わりのや学期の節目等に、児童が相互に認め合う場や、称賛し合う場、教職員が認め励ます場を工夫して設定し、スモールステップで児童の自己肯定感を高められるようにする。 ・道徳科の「希望と勇気、努力と強い意志」の学習を通して、粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践意欲を高めていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答は、90.3%で数値指標を上回り、昨年度よりも1.8ポイント上回った。学校行事等が元に戻り、児童の活動量が増えたことにより、達成感が味わえた結果と考えられる。 【次年度の方針】 学級活動や各教科の授業、各種検定等において、夢や目標をもつことや、日々の努力の大切さを実感させ、粘り強く意欲的に取り組めるようにねらいを設定していく。 教職員が児童の頑張りを認め、学期の節目等に教育長奨励賞や校内キラリ賞の表彰をすることにより、自己肯定感を高めていく。 道徳科の学習で考えたことや、児童の思いなどを紹介する機会を設定し、実践意欲を継続できるよう工夫をしていく。
1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」⇒児童・教職員の肯定的回答率 90%以上	・児童が自分の健康に関心をもち、望ましい生活習慣と健康を管理する力を身に付けられるよう、様々な授業や学校行事等において「すすくファイル」や「食育ファイル」などを活用し、養護教諭や学校栄養士などと連携して保健指導や「衛生管理チェックシート」による日常の生活指導を行う。 ・栄養バランスのとれた食事や望ましい食習慣等、各教科・領域との関連を図った食育を推進する。 ・判断力・行動力を意識した安全教育を推進するために、登校指導や一斉下校時の指導において、より一層児童の実態に即した安全指導を行う。また、交通安全教室、避難訓練等の計画を「判断力・行動力」の視点で見直し、全教職員の共通理解のもと実践する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 92.8%、教職員は 74.2%で、児童の肯定回答は上回った。 児童が自分の健康に関心をもつことができるように養護教諭や学校栄養士と担任が連携したり、すすくファイルや食育ファイルなどを活用したりして、保健指導、食育指導を行った。 授業を通して学校栄養士による給食指導や養護教諭による保健指導を行った。自主的な運動を推進するために、運動委員会から呼び掛けを行ったり、なわとびチェックを実施したりして児童の意識の向上を図った。 交通安全教室や避難訓練、一斉下校を実施し、児童の判断力・行動力を養った。 【次年度の方針】 すすくファイルや食育ファイルなどを通して、健康や安全についての振り返りを行い、児童の意識を高めていく。 養護教諭や学校栄養士と連携した指導を行う。 運動量が確保された体育の実践と、外遊びを推進し、体力向上を図る。 自ら主体的に判断し行動できるように、より実践的な避難訓練の場面を設定したり、一斉下校を通して自身の行動を振り返ったりすることで、安全意識を高めていく。

1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 全体アンケート「私は、自分のよさや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上	・宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、キャリアパスポートを活用し、各教科や学校行事等との連携を図りながら、児童が自分のよさに気づき、夢や目標をもって取り組もうとする意欲や態度を全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ・各授業において、家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする機会とする。 ・市内や地域での校外学習等を通して、多くの「人、もの、こと」に触れる場を設定することにより、それらのよさに気づき興味関心を高められるようにする。	【達成状況】 児童の肯定的回答は、91.0%で数値指標を上回った。 学級活動や生活科・総合的な学習の時間等、教科横断的な取組の中で、児童が様々な体験を通して、自己有用感を得られた結果と考えられる。 【次年度の方針】 各教科や特別活動、学校行事等と連携を図りながら、キャリアパスポートを活用し、自分のよさに気づき、夢や目標をもって意欲的に取り組むことができる児童を育成する。 体験活動や交流活動を実施し、積極的に友達や異学年、地域の人々と関わろうとする態度を育成する。
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 85%以上	・ALT を有効に活用した外国語活動を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ・教師自身がALT に積極的に関わり、放課後の打合せを綿密に行い、外国語活動の教材研究をしたり、公開授業や授業研究会に参加したりすることにより、自己の授業向上に努める。 ・他教科領域においても国際理解教育と関連付けて、グローバルな視点を育てるという意識をもった授業を行うよう努める。	【達成状況】 児童の肯定回答率は 81.9%と目標を下回ったが、昨年から 6.6 ポイント上昇した。 【次年度の方針】 引き続き、教師がALT と放課後の打ち合わせを綿密に行うことや日常生活でのやりとりを通じて、児童とALT の橋渡し役を担い、児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 該当学年で授業中に使いたい言葉や表現（クラスルームイングリッシュ）を子供たちに示し、継続して活用することで、達成感や充実感の高揚を図る。
	A7 児童は、宇都宮のよさを知っている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、宇都宮のよさを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	・宇都宮学の時間を中心に、伝統文化等を体験できる学習や、ICT を活用する機会を設けることで、宇都宮のよさを児童に気付かせる。 ・生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等を通して、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付く指導の充実に努める。 ・道徳において郷土資料を活用し郷土愛を育む。 ・教師自身が宇都宮市の歴史や文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	【達成状況】 児童の肯定回答率は 87.3%で、目標値を上回った。職員は 71.0%で目標値を下回った。 【次年度の方針】 今年度の取り組みを継続し、引き続き社会科や総合的な学習、生活科、道徳などで地域の文化や伝統を学ぶ機会を生み出し、関心を高められるように指導をする。また、郷土資料の開発、活用について、教師自身が宇都宮市の歴史や文化について理解を深めるよう努める。
2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 85%以上	・情報教育年間計画に基づき、各教科年間指導計画等と関連を図りながら、児童1人1台の端末やICT機器を活用し、AIドリルを併用して効果的な学習に取り組めるようにする。 ・市立図書館学校支援室や地域学校園の学校図書館等を有効に活用し、各学年の学習のニーズに応じた教育図書の整備充実を図ったり、調べ学習コーナーを設定したりするなど、学校図書館及び校内の環境整備に努める。	【達成状況】 児童 91.6%、教職員 90.3%と肯定回答率の目標値を上回った。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続し、各教科、総合的な学習の時間などにおいて、図書資料から情報を得る経験を重視するとともに、インターネットの活用も進めていく。また、情報を得る際には、情報の正確性について発達の段階に応じて指導する。

2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 「わたしは、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上	・カリキュラムマネジメントの視点に立ち、各教科や総合的な学習の時間等、環境教育に関わる一連の学習を再構築し、効果的な指導を行う。 ・各種出前授業等、関係機関の教育力を積極的に取り入れて、環境問題への関心及び知識・技能を高めるとともに、これまでの生活を振り返り、自分のできることを考え実践しようという意識や態度を育成する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 89.9%で数値指標を上回った。教職員の肯定的回答率は、64.5%で数値指標を下回った。各学年の学習の中で、SDG's について触れる機会が増え、関心が高まっている。 【次年度の方針】 各教科や総合的な学習の時間との連携を充実させる。また、委員会活動の中で、SDG's について取り上げたり、関連番組や SDG's の曲を流したりすることで環境問題について啓発し、関心を高められるよう指導していく。
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 90%以上	・特別な支援を要する児童について、担任が一人で抱え込むことなく、組織で適切に対応できるよう、小さな気付きを伝え合える職員室の環境づくりに努める。 ・特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、支援を要する児童について全教職員で共通理解を図り、個のニーズに応じた支援を組織的に行う。 ・必要時には即座に校内支援委員会を開いて対応を検討し、専門機関とつなげるなど、役割分担しながらチームで対応する。 ・適宜個別の支援計画及び指導計画を作成し、定期的に評価改善を加えながら指導支援を行う。	【達成状況】 教職員の肯定回答率は、100%であり、数値目標を達成した。 特別な支援を必要とする児童について、教職員間で共通理解を図りながら、組織的な対応に努めてきた。 【次年度の方針】 支援を必要とする児童について、学校生活での様子をよく見守り、児童の実態や変化に応じた支援策を考え、行っていく。 担任が一人で抱え込むことなく、職員間で定期的に児童の情報交換の場を設け、共通理解を図りながら、組織的に対応していく。 必要に応じて、校内支援委員会等を開き、児童や保護者からの願いも生かしながら、支援策を検討したり、専門機関と連携したりしていく。
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上	・学級活動、道徳科の授業等を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 ・児童会が主体となり、「いじめゼロ宣言」を作成したり、強調月間に校内放送で呼び掛けたりするなど、児童が自ら「いじめゼロ運動」を推進できるよう支援し、望ましい児童集団の育成に努める。「新田小はいつでもいじめゼロ」を合言葉にして、児童にいじめゼロを意識させる。 ・定期的なアンケートや教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解した上で、学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。 ・学年だよりにいじめ防止に向けた取組を記載するコーナーを設けたり、学校公開日や授業参観等でいじめ防止に関する授業を公開したりして保護者や地域に発信し、周知を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 98.6%、保護者の肯定的回答率も 84.9%で、どちらも数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 学校における全教育活動を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導し、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 児童が主体となって「いじめゼロ集会」を企画・運営できるようにし、望ましい児童集団の育成に努める。 アンケートや教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解し、学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。 保護者の肯定的回答率が昨年度よりも増加したことから、次年度も、学校の取組を保護者に知ってもらうために、学年だよりにいじめ防止に向けた取組を記載したり、学校公開日や授業参観等でいじめ防止に関する授業を公開したりする。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 80%以上	・児童が相互に認め合う場や、教職員がよさを認め励ます場を工夫して設けることにより、児童の自己肯定感を高められるようにする。 ・教育相談週間（年2回）や学校生活アンケート（年4回）、Q-U（3年以上1回、5年のみ2回）等を有効に活用し、実態把握と要配慮児童の早期発見に努めるとともに、必要時には迅速かつ適切な情報共有のもと、必要に応じて関係諸機関や家庭との連携を図りながら、組織的に支援を行う。 ・不登校対策の手引書（宇都宮市）の合言葉「子供に寄り添う学校づくり 抱え込まずにみんなで支援」に従って、全教職員共通理解のもとに支援を行っていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 95.5%，保護者の肯定的回答率も 90.6%で、どちらも数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 教職員が児童のよさを認め励ます場を設定し、分かる楽しい授業を心掛けるとともに、児童が相互に友達のよさを認め合う場面を充実させる。 教育相談やQ-U等により児童の実態把握をすると同時に、要配慮児童の早期発見に努めながら、組織的な支援・対応を継続していく。 不登校対策の手引書（宇都宮市）の合言葉「子供に寄り添う学校づくり 抱え込まずにみんなで支援」に従って、全教職員共通理解のもとに支援を行っていくとともに、必要に応じてケース会議等を行っていく。
3-（3） 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート「先生は、困った時に相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、楽しく学校生活を送れるようにしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率 90%以上	・児童相互及び教師と児童の温かい人間関係を育む学級・学年経営を基盤に、学校全体が児童一人一人のよさに目を向け、児童に直接言葉を掛けたり、教師間でプラスのメッセージを伝え合ったりして、児童の自己肯定感を高める取組を行う。 ・児童会活動や異学年交流など、様々な教育活動の内容を実施し、兄弟学年や縦割り班等の異学年交流を効果的に取り入れることで、高学年児童がリーダーシップを発揮できるようにしたり、全学年の児童が体験を通して思いやりの心を育てるようにする取組を継続していく。 ・教育相談や学校生活アンケート等を実施し、いじめ等の早期発見、早期解決に努め、全児童が安心して学校生活を送れるように全校体制で取り組む。	【達成状況】 肯定回答率は、児童 96.9%，教職員 100%，保護者 89.5%，地域住民 100%で、保護者の肯定的回答率は数値指標を 0.5 ポイント下回ったものの、児童の肯定的回答率は、昨年度より 0.9 ポイント上回っており、全体的に見れば、ポイントは上昇傾向にある。 学校全体で、児童一人一人のよさに目を向けて生かす取組をしたり、児童会活動や縦割り班活動を充実させたりしながら、児童の達成感や自己肯定感を高めようと努めてきた結果と考えられる。 【次年度の方針】 今後も学校全体で、児童一人一人のよさに目を向け、認め励ましながら、自己肯定感を高める取組を行っていく。 児童が楽しく、いきいきとした学校生活を送れるよう、児童会活動や縦割り班活動をさらに充実させたり、教育相談や学校生活アンケートを定期的に実施し、児童の思いや悩みに寄り添い、いじめの早期発見と早期対応に努めたりしていく。
4-（1） 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答率 90%以上	・授業のねらいを明確にし、まとめや振り返りで確認することにより、基礎・基本の定着を図る。 ・「分かる・できる・楽しい授業」を展開するため、児童の振り返りを生かした授業改善に努める。 ・チームティーチング、少人数指導、かがやきルームでの指導等を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導に努める。 ・各種便り・懇談会等を活用して、児童の様子や学習の成果を発信する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 96.7%で、数値指標を達成したが、保護者の肯定的回答率は 85.9%で、数値指標を下回った。校内研修で、学習のめあてや振り返りを充実させたり、「分かる・できる・楽しい授業」を展開したりするなど、授業改善に努めることができた。 【次年度の方針】 授業参観やオープンスクールでは伝わりきらない授業での取組について、より保護者に周知できるように、各種便り・懇談会等を活用して、児童の様子や学習の成果を発信していく。 引き続き、児童一人一人の学習状況に応じた指導を組織的に行っていく。

4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上	・学校図書館司書や外国語指導助手 (ALT)、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー (SC) 等、多様な専門性を有する学校スタッフが、「チーム学校」としてよさを最大限に発揮できるよう、教職員間でコミュニケーションを図り、取組の目的や運営方針、方法等について十分に話し合い、共有して取り組めるようにする。 ・学年会を行事予定に明示し、提出物や話し合いが必要な事案について、協力して取り組む。また、校務分掌や、学校全体で相談したい内容について、校内研修等で時間を確保する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 100%で、数値指標を上回った。専門性を有する学校スタッフとコミュニケーションを図り、様々な情報を共有して取り組むことができた。また、学年主任の計画の下、協働してよりよい教育活動が展開できた。 【次年度の方針】 引き続き、専門家の協力も得ながら、情報や状況の共有を積極的に図り、同一歩調で教育活動を展開できるようにする。 行事等では、早めに目的を明確にするとともに、取り組みの過程で気付いた課題を学校全体で関わる意識付けを行っていく。
4- (3) 学校における働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上	・本校の教職員が精神的・時間的なゆとりをもって児童に接することができるよう、児童の実態等を考慮し、教職員の意見を反映させて教育課程や校務分掌、各業務を見直し、各種行事等の目的を明確にして、実施方法の見直し、改善、業務のスリム化を行う。 ・働き方改革の視点に立って、教職員一人一人が勤務時間を意識し、計画的、効率的な業務の処理、改善に努める。リフレッシュカレンダーの活用も図る。 ・学習情報システムや ICT をはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務の効率化を図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は 96.8%で、数値指標を上回った。54%→84%→96%と肯定的回答率が推移しており、先生方の取り組みが継続していることが分かる。今後も地域・保護者の理解を得ながら充実した本校の教育活動を展開していく。 【次年度の方針】 今年度の振り返りを生かし、適正な勤務時間に向けた計画的・効率的な業務の在り方を各自が意識できるようにする。また、行事の精選や斬新なアイデアを求め、持続可能で具体的な取組を実践していく。
5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答率 85%以上	・小中9年間を貫く教育が児童の望ましい成長につながるよう、目的や方法について全教職員が理解を共有し、連携して推進する。 ・WGS あいさつ運動や宮っ子チャレンジなど、中学生の行事等への参加などを積極的に受け入れ、地域の活性化を図る。 ・地域学校園内で交流が図れるように、一人一台端末を有効に活用する。 ・各種たよりやホームページなどで、小中一貫の取組の様子が分かる写真を数多く掲載するなど、保護者や地域に向けて積極的に発信し、理解と協力を仰ぐ。	【達成状況】 教職員と地域住民の肯定的回答率はどちらも 85%以上であり、目標指数を上回った。しかし、保護者の肯定的回答率は 76.6%で、数値指標を下回った。 【次年度の方針】 若松原地域学校園としての実施計画に基づき、引き続き具体的な取組を実践していく。また、「あいさつ運動」や「水泳や鉄棒の検定」など小中一貫の活動であることを児童・保護者に意識付けるとともに、活動の様子を各種たよりや学校HPで発信していく。

5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上	・地域協議会との連携を図り、地域教材や人材、学校支援ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施するとともに、人材発掘にも取り組んでいる。 ・カリキュラムマネジメントを推進する中で、教育活動に有効な企業等の教育力を積極的に組み込む。 ・オープンスクールを積極的に行い、自由に参観したり参加したりできる機会を多く設け、家庭・地域・企業等との連携を深める。 ・活動の内容を各種たよりやホームページなどで紹介し、活動への理解を促す。	【達成状況】 肯定的回答率は、保護者 86.6%・地域住民 84.6%と目標指数を上回った。 生活科や学校農園の活動等で学校支援ボランティアを計画的に活用したり、学区の販売店見学や公共施設の見学、税務署や各文化団体の出前授業など本物との出会いのある教育活動を実践したりしてきた。 家庭科の手縫い学習の場面では、学校支援ボランティアに保護者の協力も得ることで、個に応じた支援ができた。 今年度、新たに学区内のいちご農家に社会科見学に行くことができた。 【次年度の方針】 引き続き具体的な取組を着実に実践していく。また、学校支援ボランティアに加え保護者の協力も得ることで、より充実した学校教育につなげていく。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上	・学校の安全な環境を維持するため、安全点検実施計画に基づき、毎月、校内施設・設備の点検を組織的に実施し、危険箇所があれば迅速な改善や修繕に努める。 ・危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ・熱中症予防対策、感染症対策など、適宜必要な保健指導管理及び関係者への周知徹底に努め、温湿度計や加湿器、サーキュレーターなどを使って、適切な管理を行う。	【達成状況】 肯定的回答率は、教職員 100%・保護者 88.8%と目標指数を上回った。学校安全点検実施計画に基づき、校内の安全点検や危機管理マニュアルの改善に努め、4回の避難訓練や引渡訓練なども実施した。把握した危険箇所について、すぐに周知徹底したり、可能な限り修繕したりすることもできた。 感染症の流行期や給食指導などの場面でも時季を得た指導を行うことができた。 【次年度の方針】 今年度の取り組みを継続していくと共に、危機対応や衛生面に関する情報の更新に心を配り、安心安全な学校づくりに努めていく。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 教職員アンケート「私は、授業（授業準備も含む）や業務にデジタルを積極的に活用している。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上	・各教科等年間指導計画の見直しを行い、どの単元のどの時間で ICT 機器を活用すると効果的なのかについて検討し、情報の共有を図る。 ・校内研修を設定し、デジタルを活用した授業実践の情報交換を行い、教職員の指導力向上を図る。	【達成状況】 教職員の肯定回答率は、96.8%であり、数値目標を達成した。 定期的に校内研修を実施し、デジタル機器を活用した授業実践の情報交換を行ったり、ICT 支援員と連携しながら一人一台端末を使った授業実践に取り組んだりしてきた。 【次年度の方針】 今後も、情報教育主任を中心とした校内研修を定期的 to 実施していく。また、ICT 支援員の来校時に、一人一台端末の活用方法についての情報を聞いたり、他校の実践例を紹介してもらったりしながら、教職員の操作技術や指導力向上に努めていく。 また、どの単元のどの時間で一人一台端末を活用すると効果的だったか、年間指導計画に書き入れたり、授業で使った教材をパソコン上のフォルダに保存し蓄積したりしながら、教職員間の共有化をさらに進めていく。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答率各 80%以上	・全学級ローテーションの「あいさつ運動」や、若松原地域学校園小中連携による「WGS あいさつ運動」を継続していくとともに、「あいさつ運動週間」における振り返りを行い、意識を高める。また、あいさつに対する自分の目標を設定することで、意識を高める。 ・朝や帰りのあいさつに加え、様々な時と場に応じたあいさつの実践に向けて、取組を工夫していく。 ・PTA や地域協議会と連携し、「大人から進んであいさつする」活動を地域ぐるみで展開していく。 ・校内放送などを活用し、あいさつの大切さを伝え、啓発を続けていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は、90.8%で数値目標を上回ったが、保護者の肯定的回答率は、77.6%、地域住民が 66.7%で数値指標を下回った。 【次年度の方針】 校内及び地域学校園でのあいさつ運動や授業等の場面を通して、時と場に応じたあいさつの定着を図る。 また、児童の肯定的回答率が高いにもかかわらず、地域・保護者の肯定的回答率が低いことから、校内だけでなく、登下校時の地域住民に対してのあいさつの充実も図っていく。 家庭でもあいさつの大切さを伝えてもらえるように学級懇談や学年だよりを通して啓発していく。 校内放送などを活用し、あいさつの大切さを伝え、啓発を続けていく。
	B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答率 85%以上	・生活のきまり（「新田小のよい子の一日」）やマナーについて、児童・教職員・保護者が理解を共有し、同歩調で連携して粘り強く取り組む。 ・児童の実態をもとに、生活目標にきまりとマナーに関する目標を設定し、朝の会や帰りの会で振り返る活動を継続することにより、児童の主体性を高めながら習慣化を図る。 ・年間を通じて指導していきたいきまりやマナーについては、教職員共通理解のもと、全児童に周知徹底していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は 94.7%、保護者の肯定的回答率も 89.4%で数値指標を上回った。教職員は 61.3%で、数値指標を下回った。 【次年度の方針】 生活のきまりの意味を児童とともに考えていくことを通して、きまりの必要性を感じ取らせながら重点を教職員が同歩調で継続して指導することで生活習慣の定着を図る。 生活目標について、様々な時間を活用し、自ら振り返る活動を行うことで、児童の規範意識を高めていく。 生活のきまりやマナーについて一丸について、教職員共通理解のもと、全児童に周知徹底していく。
	B3 児童は、家庭での学習に取り組み、学習の習慣化を図っている。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は、家庭での学習に取り組み、学習の習慣化を図っている。」 ⇒保護者の肯定的回答率 80%以上	・家庭との連携・協力を図りながら、児童自ら家庭学習の計画・実践・振り返りまでできるよう、保護者への啓発を行い、支援に努める。 ・家庭学習のよい事例やノートを紹介したり、教室に掲示したりして、自主学習の意欲を高めるようにする。	【達成状況】 保護者の肯定的回答率は 73.5%であり 6.5 ポイント数値指標を下回っている。 【次年度の方針】 家庭学習のよい事例やノートを教室や学年間で掲示して自主学習への意欲を高める。授業参観等にも掲示しておくことで、自主学習の例を示し、保護者への啓発活動を行う。

	B 4 児童は本と親しみ、読書を楽しんでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は本と親しみ、読書を楽しんでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 80%以上	・朝の活動時間帯の定期的な読書の時間や、ボランティアによる読み聞かせ、ブックトーク、読書週間での催し等、本に触れ合い親しむ多様な体験を通して、読書に対する興味関心を高め、楽しさに気付けるようにする。 ・本校図書の分館貸出し、市立図書館学校支援室の有効活用や、児童によるポップ作成で本の紹介をするなど、本を手にするための場を増やしたり、家庭と連携した家読（「家族読書」）を実践したりすることで、児童と本をつなぐ取組を推進する。 ・図書だよりの発行などを通して、児童の図書活用への意欲を高める。	【達成状況】 児童の肯定的回答率は数値指標をやや下回った。教職員の肯定的回答率は93.5%で数値指標を上回った。 【次年度の方針】 昨年度よりも本の貸出冊数を増やし読書への抵抗がなくなるよう努めてきた結果、学年にふさわしい本を選ぶ力が身に付いてきた。 次年度はさらに読書の質が高まり、本に親しめるよう読書の時間を確保する。 さらに、家庭と連携した家読（「家族読書」）についても保護者への啓発活動を行う。
	B 5 児童は、異学年交流を通して、思いやりの心など、豊かな人間性を育んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「私は、異学年交流で、多くの友達と助け合いながら楽しく活動している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答率 85%以上	・わくわくタイムでの縦割り班遊びや清掃活動、兄弟学年での農園活動や幼保小連携活動等を通して、助け合いや思いやりの心を育てる。 ・縦割り班の班長を中心に児童が主体的に活動できる機会を増やしたり、学年ごとに役割を与え、互いに教え合う機会を意図的に設定したりする。 ・学習や休み時間など、日常の中で交流できる機会を増やし、様々な学年と関わりをもてるようにする。 ・上学年児童には、誰かの役に立つ経験を多く積ませ、自己有用感を高められるようにし、下学年児童には、感謝の気持ちや、上学年児童への憧れの気持ちをもてるように支援する。	【達成状況】 肯定回答率は、児童 90.3%、教職員 96.8%、保護者 92.8%、地域住民 77.8%で、児童と教職員、共に数値指標を達成した。 児童、教職員、保護者の肯定回答率は昨年度に比べ、上昇していることから、異学年交流を通し、児童の活動に対する楽しさや充実感を高めることはできたと考えられるが、地域住民の肯定回答率は昨年度と比べ、低くなっている。 【次年度の方針】 次年度も異学年交流の活動や機会を計画的に取り入れ、上学年、下学年の児童がそれぞれの立場で協力するためにはどうしたらよいか、自分で気づき、行動できるように支援していく。そして、このような活動の取組や児童の様子を学校だよりやホームページ等で地域に発信し続けていく。 上学年の児童は下学年の児童に優しく教える、下学年の児童は上学年の児童に対して「ありがとう」と言葉で伝える機会を活動の中で大切にしていくことで、お互いの思いやりや感謝の気持ちをさらに高め、地域の行事や登下校時のあいさつなどを通し、社会生活の中でも表していけるようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・25項目中13項目で、肯定的回答率が数値指標を上回った
- ・「学習への主体的な取り組み」については、児童と教職員の回答に大きな差が見られる。取り組み方に関して、認識の違いが大きいと考えられる。目指す姿を明確に示すことで、教職員の授業の工夫と、児童の成長を促していく。
- ・「英語でのコミュニケーション」については児童の数値指標は超えていないものの、8割と比較的高い。授業の中でやり取りを増やすなど、児童が会話を行っているという自覚をもたせる工夫をする。
- ・「宇都宮のよさ」については、家庭や地域社会との関わりの有無が大きく影響する。知識的なことだけでなく、体験的な活動を取り入れる必要がある。まずは、教職員が研修等で宇都宮について学び、熱意をもって伝えられるようにする。
- ・「デジタル機器や図書の活用」については、児童、教職員ともに高い割合となっている。これまで通り、一人一台端末の利用方法について、職員研修を実施したり、ITC支援員と連携したりすることで教職員の技術向上に努め、授業の中でより効果的に取り入れていけるようにする。
- ・「粘り強さ」「健康や安全な生活」について、教職員の肯定的回答率が他の肯定的回答率より低い。これは指導に効果を実感できなかったという裏返しでもある。粘り強く最後まで取り組ませ、達成感を味わわせる取組や、きまりを守った安全な生活について一つ一つ徹底していくなど、効果的な指導ができた実感できるような方策を検討する必要がある。
- ・「家庭学習の習慣」「進んで読書」においては、該当する対象の肯定的回答率が数値指標を下回り、昨年度に引き続き、課題が見られた。今後さらなる改善に向け、児童への働きかけ方や保護者への啓発方法を考えるなど、工夫した取組が必要である。
- ・「あいさつ」については、児童の肯定的回答率は高いが、保護者・地域の肯定的回答率は高くない。校内ではあいさつが出来ているが、家庭や地域でのあいさつが不十分なのではないかと考えられる。「いつでも・どこでも・自分から」を意識させたあいさつ運動への取組を行っていく。
- ・「持続可能な社会」では、教職員の肯定的回答割合は毎年低い。日常で行っているゴミの分別等、取組について周知徹底することで、教職員自身から意識を変えていく必要がある
- ・「特別な支援」「教職員のチーム」については肯定回答率が100%となった。今後も、支援を必要とする児童について、教職員間で情報交換を密にし、共通理解を図りながら組織的に対応していく。
- ・「異学年交流」「いじめを生まない指導」「思いやりの心」についての肯定的回答割合は高かった。縦割り班活動や児童会活動で様々な異学年交流の機会をとったり、教育相談や学校生活アンケートでいじめ等の早期発見、早期解決に努めたりしたことが効果を発揮している。今後も、児童がやりがいを感じる活動を設定し、思いやりの心を育みながら、明るく生き生きとした学校生活を送れるように支援していく。
- ・「家庭・地域・企業との連携」についての肯定的回答率は指標を上回っている。様々な活動において協力をいただいて「地域とともにある学校」づくりができています。今後も保護者・地域をはじめ関係諸機関との連携を密にして教育活動を行っていきたい。

7 学校関係者評価

テーマ1「きまりとマナー」「あいさつ」について

- ・あいさつは元気よくできている。
- ・学校を見に行った時に低学年の児童からは「こんにちは」の声が元気よく聞こえた気がする。高学年になるとシャイな性格がもう出ているのか、あいさつが出来難い子もいたようだ。
- ・朝のあいさつはできていない。普段の生活の中での取組が必要。
- ・朝のあいさつは3割程度が元気に声を上げ、下校時は声をかけると全員から返ってくる。学校の取組を理解しているようである
- ・朝の見守りを毎日しているが、朝のあいさつの声掛けをすると「うるさい」と何回か言われたことがある。
- ・朝の通勤時に会う児童は、見守りボランティアの方にあいさつをあまりしていないように見られる。感謝の気持ちをもって、自分からあいさつできるとよい。
- ・学校での姿を見ると、身勝手な様子はあまり見受けられない。
- ・自由な学校生活環境のもとで、明るく元気にきまりとマナーを守り、積極的なあいさつも励行されており、笑顔いっぱいの様子が感じられる。
- ・きまりを守り生活できていると思う。声をかけると元気よくあいさつを返してくれる。
- ・きまりとマナーについては身近にいる大人たちが手本となって実践していくことが重要ではないかと思う。
- ・きまりとマナーは小学校のうちに身につくとよいので、今後も守ってほしい。

テーマ2「地域の教育力を生かした特色ある教育活動」「家庭・地域・企業等との連携・協力」について

- ・ 少子高齢化の中で、連帯感が弱まってきている。育成会でも小規模ながらさつまいも掘りを行った。学校として地域との連携協力を積極的である
- ・ 地域でのイベントには育成会を通し積極的に参加してもらい感謝している
- ・ 家庭・地域・企業等との連携は「協働的な学び」「開かれた教育課程」の実現、そして、目指す学校像「地域とともにある学校」に向け、充実を図るべきテーマだと思う。
- ・ 中学校との交流を良くされているようだ。
- ・ 企業との交流で、保護者の勤め先の様子を伺いみるということがあると保護者も尊敬される素晴らしい取組になると思う。
- ・ 地域の祭りなどについて紹介したり学習させたりする機会があるのか。ぜひ学習させてほしい。
- ・ 学校周辺の企業などの活用・地域に残る有名なものの学習について教材開発してほしい。
- ・ 朝の登下校ボランティア・授業支援ボランティアなど地域の方がとても積極的に協力してくれる。
- ・ 読み聞かせへの取組で子供たちが本を好きになりたくさん本を読むようになる。

テーマ3「児童の安全確保・危機管理」

- ・ 朝の登校はどの班もおおむね隊列を崩すことなく登校している。
- ・ 子供の安全のため、送り迎えの乗り入れの時間が決まっていると思う。子供の登校時間以外にしてほしい。また、学校の中は徐行してほしいができていない。
- ・ 朝夕の登下校は自治会の取組で誘導班を組織して見守り活動をし、児童の安全を見守っている。
- ・ 登下校における安全確保は地域の協力を得て行っているが、要員確保が困難になっているのが現状である。
- ・ 外部からの進入に対しての危機管理が重要である。
- ・ 児童の危機管理について、起きる前に検討しているように思う。
- ・ 登下校の安全確保については、先生方とたくさんの地域ボランティアによって保たれている。
- ・ 避難訓練や安全管理などの計画や取組の状況の説明があると評価ができる。

テーマ4「学校の活気・いきいきとした児童」

- ・ 授業参観等で訪問しても、皆さん元気に勉強に励み廊下ですれ違った際もあいさつをしてくれ学校の活気がわかる。
- ・ 運動会では、元気に生き生きと取り組む児童の姿が見られた。
- ・ 学校公開での授業や休み時間の様子では、明るく、真面目な様子だと感じられた。
- ・ いつもにぎやかに走り回る姿を見られ、とても元気に活動している。
- ・ 校庭で元気に遊ぶ姿を見たり、運動会での様子を見たりすると、とても活気があり、いきいきとしていると感じる。
- ・ 体育後の給食前の児童の姿を見ると、とても元気で明るく、いきいきと生活している様子が見える。
- ・ 引き続き、学校と地域で連携を取りながら、児童がよりよい学校生活を送れるようサポートしたい。
- ・ 毎年さつまいも植えから収穫まで接していると、児童の成長が伝わってきて、来年も頑張れる勇気がもらえる。
- ・ トランプ、かるた、なわとび、キャッチボールなど親子で家庭でできることをしてほしい。
- ・ 関係者評価の前に自己評価の説明があると、それに対しての評価ができる。学校教育目標や具体目標に向けての取組と評価がどのようなのか知りたい。
- ・ 今後、活動に携わったことがないような方が参加できるような機会がふえるといい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

〈学校運営〉

「個と集団を育てる教育の実践、組織力・同僚性による効率的な職務の遂行、家庭・地域と一体となった取組の推進などによる、活気と創意に満ちた信頼される学校づくり」を重点目標に、「認めてほめて伸ばす教育」の実践・あいさつの響く学校づくりの推進・わかる授業と居心地のよい温かな学級集団づくりの推進・読書活動の推進・勤務時間を意識した効率的な業務の遂行・子供の姿を伝える情報発信を行ってきた。特に「認めてほめて伸ばす教育」については、全教職員で意識的に取り組み、児童同士の思いやりの心が高まったり、自己肯定感を高めることが出来たりと、一定の効果上げることができた。

次年度も、本校の教育具体目標である「よく考える子供」「思いやりのある子供」「体力のある子供」「はたらく子供」の実現に向け、教職員の同僚性をさらに高め、チームとして教育に当たっていく。

〈学習指導〉

「自ら学び、互いに高め合う児童の育成～児童の「わかる!」「考える!」「伝える!」を高める授業の工夫～」を重点目標に、「学力の基礎・基本」の確実な定着・望ましい学習態度、習慣の定着・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善・読解力・表現力の育成・読書活動の推進・家庭学習の習慣化に取り組んできた。特に、「主体的・対話的で深い

学びの実現に向けた授業改善」については、教員全員で、授業力向上に向け主体的に研修に取り組んだ。しかし、取り組んできたことが児童の学力向上につながっているとは言えない状況である。

「主体的・対話的で深い学びの実現」には、学習の基礎・基本の確実な定着が大前提である。今後、各種調査の結果を踏まえ、児童の実態に即した学習指導方法を確立していく必要がある。教職員全員で、授業力の向上をはじめとした学習指導力の向上に努めるとともに、基礎・基本の確実な定着に向けた実践を重ね、学ぶことの本質的な楽しさを体感させ、自ら学ぶ主体性・互いに高め合う態度・自らの考えを表現できる表現力を育成していく。

〈児童生徒指導〉

「自ら考え正しく判断し、豊かな人間関係を築くことができる児童の育成～思いやりの心をもって、互いに認め合う学校生活を通して～」を重点目標として、・礼儀を意識したあいさつの定着、規範意識の醸成・縦割り班活動や異学年流を充実させた望ましい集団づくり・個に応じた指導の充実について、家庭・地域・関係機関等と連携して取り組んできた。異学年交流について積極的に取り入れることにより、児童に思いやりの心を育むことができてきている。今後も、正しい判断のもと、思いやりの心をもって豊かな人間関係を築くことのできる児童の育成を目指し、課題となる規範意識の醸成・主体的なあいさつについて、家庭や地域、関係機関と連携しながら取り組んでいく。

〈健康（体力・保健・食・安全）〉

「自らの健康に関心を持ち、望ましい生活習慣を身に付けようとする児童の育成～生活習慣の改善を目指した取組を中心として～」を重点目標に、健康の保持増進・運動の日常化・食に関する指導の充実・判断力・行動力を育む安全教育について、家庭・地域との連携協力のもと取り組んできた。昨年度の振り返りを生かし、運動の日常化や健康な食生活の意識づけに関して、児童会の各種委員会活動で呼びかけていく活動を取り入れるなど、児童が健康を保持増進するために、主体的に考え、判断し、行動することができるような指導の工夫改善を行った。今後も、今年度の成果と課題をもとに、指導方法を工夫改善し、健康な心と体でいきいきとした学校生活を送る、健やかでのびのびとした児童の育成に取り組んでいく。